

公認心理師資格対応の新カリキュラム下にある大学生の 臨床心理士と公認心理師の認知度と資格取得の希望状況

——2018年度から2019年度までの追跡調査——

牧 田 浩 一

公認心理師資格対応の新カリキュラム下にある大学生の 臨床心理士と公認心理師の認知度と資格取得の希望状況 ——2018年度から2019年度までの追跡調査——

牧 田 浩 一

Koichi MAKITA

目次

- I 問題
- II 目的
- III 方法
- IV 結果
- V 考察

[Abstract]

The Level of Recognition of Clinical and Certified Psychologists Held by University Students Studying a New Curriculum to Qualify as Licensed Psychologists and Their Hopes to become Certified: A Follow-up Survey from 2018 to 2019

The subjects of this study comprised a total of 189 first-and second-year university students (131 females and 58 males; average age: 18.50 years \pm 0.649; range: 18–23 years) undertaking a new curriculum to obtain the psychologist certification. We investigated the extent of their understanding under two categories, i.e. clinical (CP) and licensed psychologists (P). We also tried to ascertain whether they hoped to obtain these certifications by examining and comparing the data for 2018 and 2019. The results suggested that 98.9% of the participants (187 students) identified CP and 97.4% (184 students) recognised P. The first-year university students of 2018 scored higher on the question ‘Do you hope to obtain a certification as a CP?’ than the second-year university students of 2019. Similarly, first-year university students of 2019 scored higher on the question ‘Do you hope to obtain a certification as a P?’ than the second-year university students of 2019. These results suggest that the number of students who hoped to obtain certifications decreased in the second year of the course.

I 問題

広報, 政策, 啓発などのための基礎的な資料を得ることを目的とし, 様々な分野で認知度に関する調査が行われている。以下に, 近年の様々な認知度に関する主要な調査を列挙する。

例えば, 「心房細動の認知度」(杉原ら, 2017), 「歯周病の認知度」(下野ら, 2018),

「変形性膝関節症患者における理学療法の認知度」(南條・高木, 2019), 「グルテンフリー食の認知度」(庄林ら, 2019), 「AED 設置場所の認知度」(八戸ら, 2020), 「歯科麻酔の認知度」(小川ら, 2020), 「摂食障害の認知度」(小原ら, 2020), 「ヘリコバクターピロリ感染に関する認知度」(芹澤ら, 2020)などの報告がある。

近年, 臨床心理士は, 災害時の心理的支援

キーワード：臨床心理士の認知度, 公認心理師の認知度, 資格取得の希望状況, 公認心理師資格対応のカリキュラム下にある大学生

Key words: Level of recognition of clinical psychologists, level of recognition of certified psychologists, state of hoping to become certified, university students taking a curriculum for becoming certified as licensed psychologists

や教育現場でのスクールカウンセラーとしてよく知られる心理専門職として定着している。しかし、臨床心理士は、あくまで公益財団法人による認定資格であり国家資格ではないため、心理的支援の必要性が広く求められるようになってから、長い間心理専門職の国家資格の確立が望まれてきた。多くの関係者の努力により、2015年9月9日に公認心理師法（厚生労働省、2015）が成立し、本邦初の心理専門職の国家資格化が実現した。公認心理師は、臨床心理士に比べ養成カリキュラム上の必要実習時間が増えるため、実習先の確保、養成に携わる関係者への情報共有や実習の方法など課題も少なくない。全国の大学で公認心理師資格対応の新カリキュラムが2018年度から開始された。

臨床心理士の認知度に関して、安部ら（2010）の特別支援教育コーディネーターを対象とした調査があり、「臨床心理士は、認知度が高い専門職」だという。また、臨床心理士と公認心理師の認知度について、牧田（2019）は心理学を専攻する大学1年生を対象に、その認知度を調べている。しかしながら、これらの先行研究は、限られた範囲内で臨床心理士や公認心理師の認知度を一定程度明らかにしたものでしかない。現在、心理専門職の国家資格である公認心理師が成立したこともあり、その養成を目的とした教育現場では多くの課題を抱えつつ、カリキュラムの遂行に努めている。そこで今回臨床心理士と公認心理師の認知度と資格取得希望の状況を基礎的資料としてまとめることで、それらの課題解決の一助となればと考え、調査を実施した。

本研究では以下の仮説をもとに研究目的を設定した。仮説①2018年度と2019年度の公認心理師の資格対応下にある大学生は、臨床心理士と公認心理師の認知度に差はないだろう。仮説②2018年度と2019年度の公認心理師資格対応の新カリキュラム下にある大学生

は、臨床心理士と公認心理師の資格取得希望の状況に差はないだろう。

II 目的

本研究では、公認心理師資格対応の新カリキュラム下にある大学1年生と2年生を対象に臨床心理士と公認心理師の認知度とそれらの資格取得の希望状況を明らかにする。また、2018年度と2019年度を比較し、臨床心理士と公認心理師の認知度と資格取得の希望状況の変化を検証する。

III 方法

1. 調査対象

地方の一私立大学の公認心理師資格対応の新カリキュラム下にある大学1年生と2年生224名を対象に、質問紙を配布し、193名分を回収した（回収率86.2%）。そのうち、欠損値のあるものを除外した大学1年生（133名）と2年生（56名）計189名（女性131名、男性58名、平均年齢18.50歳±0.649、range：18-23）を分析対象とした（表1）。資格取得希望者の状況を調べるために、本調査の2018年度は公認心理師資格対応の新カリキュラムが開始された1年生のみを対象とするとともに、牧田（2019）の調査データを用い、欠損値のあるものを除外し、分析対象とした。

表1 対象者の属性

		年度		合計
		2018年度	2019年度	
	1年生	51	82	133
	2年生	0	56	56
合計		51	138	189

2. 調査方法

質問紙を用いて調査した。

3. 倫理的配慮

調査用紙に調査目的についての説明を記

し、配布の時点で、アンケートへの回答は任意かつ無記名であり、調査に協力せずとも何ら不利益が生じないことを文書と口頭で伝えた。

4. 調査時期

調査は、第一期、2018年7月、大学の講義科目「心理統計法基礎」の時間を割愛し、第二期、2019年4月「新学年学科オリエンテーション」の時間を割愛し、二期に渡り実施した。調査時間は、約10分間を要した。

5. 調査内容

1) 基本属性：所属学科、学年、年齢、性別を尋ねた。

2) 全6項目の質問からなる。①「あなたは臨床心理士という資格を聞いたことがありますか？」の質問を「あります」「ありません」「分かりません」の3件法で回答を求めた。

②「①」で「あります」と回答した者に対し、「あなたは臨床心理士についてどのくらい知っていますか？」の質問を「少し」～「とても」の7件法で回答を求めた。

③「あなたは臨床心理士の資格を取得したいですか？」の質問を「取得するつもりはない」～「取得したい」の7件法で回答を求めた。④「あなたは公認心理師という資格を聞いたことがありますか？」の質問を「あります」「ありません」「分かりません」の3件法で回答を求めた。

⑤「④」で「あります」と回答した者に対し、「あなたは公認心理師についてどのくらい知っていますか？」の質問を「少し」～「とても」の7件法で回答を求めた。⑥「あなたは公認心理師の資格を取得したいですか？」の質問を「取得するつもりはない」～「取得したい」の7件法で回答を求めた。

IV 結果

1. 臨床心理士の認知度

対象者全体の「あなたは臨床心理士という資格を聞いたことがありますか」の回答を男

女ごとにクロス集計した結果を表2に示す。

「ある」と回答した人は、98.9% (187名), 「ない」と回答した人は、1.1% (2名), 「分からない」と回答した人はいなかった。続いて、臨床心理士の認知度について、「2018年度1年生群」, 「2019年度1年生群」, 「2019年度2年生群」の3群に分け集計を行った(表3)。その結果、2018年1年生群は、「ある」と回答した人は、100% (51名), 「ない」「分からない」と回答した人は、いなかった。2019年1年生群は、「ある」と回答した人は、97.6% (80名), 「ない」と回答した人は、2.4% (2名), 「分からない」と回答した人はいなかった。2019年2年生群は、「ある」と回答した人は、100% (56名), 「ない」「分からない」と回答した人は、いなかった。回答者なしのセルが多かったため、分布の偏りを調べるための χ^2 乗検定は行わなかった。

2. 公認心理師の認知度

対象者全体の「あなたは公認心理師という資格を聞いたことがありますか」の回答を男女ごとにクロス集計した結果を表4に示す。

「ある」と回答した人は、97.4% (184名), 「ない」「分からない」と回答した人は2.6% (5名)だった。続いて、公認心理師の認知度について、「2018年度1年生群」, 「2019年度1年生群」, 「2019年度2年生群」の3群に分け集計を行った(表5)。その結果、2018年1年生群は、「ある」と回答した人は、94.2% (49名), 「ない」と回答した人は、3.8% (2名), 「分からない」と回答した人は、1.9% (1名)だった。2019年1年生群は、「ある」と回答した人は、98.8% (80名), 「ない」と回答した人は、1.2% (1名)「分からない」と回答した人はいなかった。2019年2年生群は、「ある」と回答した人は、98.2% (55名), 「ない」と回答した人は、1.8% (1名), 「分からない」と回答した人はいなかった。回答者なしのセルが多かったため、分布の偏りを調べるための χ^2 乗検定は行わなかった。

表2 「あなたは臨床心理士という資格を聞いたことがありますか」の男女ごとの回答分布(クロス集計)

			臨床心理士の認知度			合計
			ある	ない	分からない	
性別	男性	度数	56	2	0	58
		割合	96.6%	3.4%		100%
	女性	度数	131	0	0	131
		割合	100%			100%
合計		度数	187	2	0	189
		割合	98.9%	1.1%		100%

表3 「あなたは臨床心理士という資格を聞いたことがありますか」の年度と学年ごとの回答分布(クロス集計)

		臨床心理士の認知度			合計
		ある	ない	分からない	
2018年度 1年生	度数	51	0	0	51
	割合	100%			100%
2019年度 1年生	度数	80	2	0	82
	割合	97.6%	2.4%		100%
2019年度 2年生	度数	56	0	0	56
	割合	100%			100%

表4 「あなたは公認心理師という資格を聞いたことがありますか」の男女ごとの回答分布(クロス集計)

			公認心理師の認知度			合計
			ある	ない	分からない	
性別	男性	度数	55	2	1	58
		割合	94.8%	3.4%	1.7%	100%
	女性	度数	129	2	0	131
		割合	98.8%	1.5%		100%
合計		度数	184	4	1	189
		割合	97.4%	2.1%	0.5%	100%

表5 「あなたは公認心理師という資格を聞いたことがありますか」の年度と学年ごとの回答分布(クロス集計)

		臨床心理士の認知度			合計
		ある	ない	分からない	
2018年度 1年生	度数	49	2	1	52
	割合	94.2%	3.8%	1.9%	100%
2019年度 1年生	度数	80	1	0	81
	割合	98.8%	1.2%		100%
2019年度 2年生	度数	55	1	0	56
	割合	98.2%	1.8%		100%

表6 2018年度1年生と2019年度1年生と2019年度2年生の得点

質問項目	年度	学年	度数	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差
「臨床心理士をどれくらい知っていますか」	2018年度	1年生	51	3.45	1.68	0.23
	2019年度	1年生	80	3.01	1.71	0.19
	2019年度	2年生	56	2.96	1.63	0.22
「臨床心理士の資格を取得したいですか」	2018年度	1年生	51	4.35	2.14	0.30
	2019年度	1年生	82	4.15	1.99	0.22
	2019年度	2年生	56	3.55	1.97	0.26
「公認心理師をどれくらい知っていますか」	2018年度	1年生	51	3.35	1.82	0.25
	2019年度	1年生	80	3.38	1.80	0.20
	2019年度	2年生	55	3.27	1.81	0.24
「公認心理師の資格を取得したいですか」	2018年度	1年生	51	4.39	2.18	0.31
	2019年度	1年生	81	4.96	2.00	0.22
	2019年度	2年生	56	4.18	2.07	0.28

3. 「2018年度1年生群」, 「2019年度1年生群」と「2019年度2年生群」の3群ごとの得点の集計

「臨床心理士をどれくらい知っていますか」, 「臨床心理士資格を取得したいですか」, 「公認心理師をどれくらい知っていますか」, 「公認心理師の資格を取得したいですか」のそれぞれの質問項目の得点を2018年1年生, 2019年1年生と2019年度2年生の3群ごとに集計した結果を示す (表6)。

4. 「2018年1年生群」と「2019年1年生群」の比較

2018年1年生と2019年1年生との間に得点の差があるかどうかを調べるために, t検定を行った (表7)。「臨床心理士をどれくらい

知っていますか」の得点について, 「2018年1年生群」と「2019年1年生群」の平均値に有意な差は見られなかった ($t(129)=1.44$, ns)。また, 「臨床心理士の資格を取得したいですか」の得点について, 「2018年1年生群」と「2019年1年生群」の平均値に有意な差は見られなかった ($t(131)=0.564$, ns)。更に, 「公認心理師をどれくらい知っていますか」の得点について, 「2018年1年生群」と「2019年1年生群」の平均値に有意な差は見られなかった ($t(129)=-0.068$, ns)。そして, 「公認心理師の資格を取得したいですか」の得点について, 「2018年1年生群」と「2019年1年生群」の平均値に有意な差は見られなかった ($t(130)=-1.540$, ns)。

表7 2018年度の1年生と2019年度の1年生の得点の比較 (t検定)

質問項目	F値	有意確率	t値	自由度	有意確率(両側)	平均値の差	差の標準誤差	信頼区間		判定
								下限	上限	
「臨床心理士をどれくらい知っていますか」	0.497	.482	1.442	129	.152	0.438	0.304	-0.163	1.040	ns
「臨床心理士の資格を取得したいですか」	1.483	.225	0.564	131	.573	0.207	0.366	-0.518	0.931	ns
「公認心理師をどれくらい知っていますか」	0.149	.700	-0.068	129	.946	-0.022	0.324	-0.664	0.619	ns
「公認心理師の資格を取得したいですか」	1.233	.269	-1.540	130	.126	-0.571	0.371	-1.304	0.163	ns

(* p<.05, ns not significant)

表8 2018年度の1年生と2019年度の2年生の得点の比較 (t 検定)

質問項目	F 値	有意確率	t 値	自由度	有意確率 (両側)	平均値 の差	差の 標準誤差	信頼区間		判定
								下限	上限	
「臨床心理士をどれくらい知っていますか」	0.007	.931	1.522	105	.131	0.487	0.320	-0.147	1.121	ns
「臨床心理士の資格を取得したいですか」	1.178	.280	2.010	105	.047	0.799	0.398	0.011	1.588	*
「公認心理士をどれくらい知っていますか」	0.147	.702	0.227	104	.821	0.080	0.353	-0.619	0.780	ns
「公認心理士の資格を取得したいですか」	1.161	.284	0.519	105	.605	0.214	0.411	-0.602	1.029	ns

(* p<.05, ns not significant)

表9 2019年度の1年生と2019年度の1年生の得点の比較 (t 検定)

質問項目	F 値	有意確率	t 値	自由度	有意確率 (両側)	平均値 の差	差の 標準誤差	信頼区間		判定
								下限	上限	
「臨床心理士をどれくらい知っていますか」	5.81	.017	1.42	81.00	.159	0.02	0.02	-0.01	0.06	ns
「臨床心理士の資格を取得したいですか」	0.01	.921	1.72	136	.087	0.59	0.34	-0.09	1.27	ns
「公認心理士をどれくらい知っていますか」	1.11	.294	0.52	136	.604	0.02	0.04	-0.05	0.09	ns
「公認心理士の資格を取得したいですか」	0.03	.869	2.22	135	.028	0.78	0.35	0.09	1.48	*

(* p<.05, ns not significant)

5. 「2018年1年生群」と「2019年2年生群」の比較

2018年1年生と2019年2年生との得点の間に差があるかどうかを調べるために、t 検定を行った(表8)。「臨床心理士をどれくらい知っていますか」の得点について、「2018年1年生群」と「2019年2年生群」の平均値に有意な差は見られなかった($t(105)=1.522$, ns)。また、「臨床心理士の資格を取得したいですか」の得点について、「2018年1年生群」と「2019年2年生群」の平均値に有意な差が見られた($t(105)=2.010$, $p<.047$)。

「公認心理士をどれくらい知っていますか」の得点について、「2018年1年生群」と「2019年2年生群」の平均値に有意な差は見られなかった($t(104)=0.227$, ns)。そして、「公認心理士の資格を取得したいですか」の得点について、「2018年1年生群」と「2019年2年生群」の平均値に有意な差は見られなかった

($t(105)=0.518$, ns)。

6. 「2019年1年生群」と「2019年2年生群」の比較

2019年1年生と2019年2年生との得点の間に差があるかどうかを調べるために、t 検定を行った(表9)。「臨床心理士をどれくらい知っていますか」の得点のみ、等分散性のため Levene の検定に有意な差が見られたので、等分散性を仮定しなかった。

「臨床心理士をどれくらい知っていますか」の得点について、「2019年1年生群」と「2019年2年生群」の平均値に有意な差は見られなかった($t(81.00)=1.423$, ns)。また、「臨床心理士の資格を取得したいですか」の得点について、「2019年1年生群」と「2019年2年生群」の平均値に有意な差は見られなかった($t(136)=1.722$, ns)。「公認心理士をどれくらい知っていますか」の得点について、「2019年1年生群」と「2019年2年生群」の平

均値に有意な差は見られなかった ($t(136) = 0.520$, ns)。そして、「公認心理師の資格を取得したいですか」の得点について、「2019年1年生群」と「2019年2年生群」の平均値に有意な差が見られた ($t(135) = 2.222$, $p < .028$)。

V 考察

臨床心理士の認知度について、安部ら(2010)は、特別支援教育コーディネーターを対象とした調査を実施している。その結果、臨床心理士は、他の医療専門職に比べ、認知度が高い専門職だという。

牧田(2019)は「心理学を専攻する大学の1年生の臨床心理士と公認心理師の認知度を調査し、それらの認知度には強い正の相関がある」としている。

本研究では、公認心理師資格対応の新カリキュラム下にある大学1年生と2年生を対象に、2か年度に渡り臨床心理士と公認心理師の認知度と資格取得の希望状況を探り、今後の心理専門職の養成のための資料を得ることを目的とした。その結果、仮説①「2018年度と2019年度では、臨床心理士と公認心理師の認知度に差はないだろう」は、支持された。仮説②「2018年度と2019年度では、臨床心理士と公認心理師の資格取得希望の状況に差はないだろう」は支持されなかった。以下に、これらの結果について若干の考察を加える。

表2では「あなたは臨床心理士という資格を聞いたことがありますか」の回答を男女ごとにクロス集計し、年度と学年ごとに集計している。その結果、臨床心理士の認知度は98.9% (187名)であり、年度と学年の違いはほとんど見られなかった。「大学生」の臨床心理士の認知度は高いものの、「聞いたことがない」という者も少数ながら存在した。表4では「あなたは公認心理師という資格を聞いたことがありますか」の回答を男女ごと

にクロス集計し、年度と学年ごとに集計している。その結果、公認心理師の認知度は97.4% (184名)であり、年度と学年の違いはほとんど見られなかった。「大学生」の公認心理師の認知度は高いものの、「聞いたことがない」「分からない」という者も少数ながら存在した。更に、表2と表4の臨床心理士と公認心理師の認知度の違いもほとんど見られなかった。したがって、公認心理師資格対応の新カリキュラム下にある大学生のほとんどが両資格を認知しているものと考えられた。

表7～表9では、「臨床心理士をどれくらい知っていますか」、「臨床心理士資格を取得したいですか」、「公認心理師をどれくらい知っていますか」、「公認心理師の資格を取得したいですか」のそれぞれの質問項目について、年度と学年ごとの比較を行っている。表7では、2018年1年生と2019年1年生との間に差があるかどうかを調べている。その結果、全ての質問項目に有意な差は見られなかった。これは、1年生の資格取得希望状況に差がないことを示していると考えられた。

表8では、2018年1年生と2019年2年生の間に差があるかどうかを調べている。その結果、2018年1年生の方が2019年2年生よりも「臨床心理士の資格を取得したい」が多かった。また、表9では、2019年1年生と2019年2年生の間に差があるかどうかを調べている。その結果、2019年1年生の方が2019年2年生よりも「公認心理師の資格を取得したい」が多かった。表7～表9の結果から、大学1年生時の方が、大学2年生時よりも臨床心理士、または公認心理師資格取得希望者が多かった。このことから、大学1年生時に資格取得を強く希望し、2学年以降、資格取得を希望する者は減少することが示唆された。

臨床心理士と公認心理師の資格取得を希望する学生が、学年を経るに従い減少していくということについて、以下の理由が考えられた。第一に、学問としての心理学の学習が進

み、臨床心理士や公認心理師に関する具体的な情報を知ることによって学生の進路から資格取得という選択肢がなくなるため。第二に、国家資格である公認心理師の資格取得を希望する者が絶対的に増加しているため。第三に、学生各自の公認心理師の資格対応科目の履修条件により、2年生以降、資格取得を希望する者が減少していく。

大学進学を希望する高校生などを対象に、国家資格である公認心理師の認知度を高めることにより、資格取得希望者の増加が期待できる。

最後に、本研究の今後の課題について述べる。

本研究は地方の一大学を対象とし、かつ1, 2年生のみを対象として調査を行ったが、大学3, 4年生や複数の公認心理師資格対応の新カリキュラム下にある大学において調査を実施することにより、更なる知見が得られるだろう。更に、公認心理師資格の取得希望者の維持、増加のため、カリキュラム内容の質の向上を図る必要性を痛感しており、今後この調査の継続および拡大を検討している。

【付記】

本研究調査に協力して下さった教員各位、ならびに調査に参加された学生諸氏に記して感謝申し上げます。ありがとうございました。

【文献】

- 安部優子・本多ふく代 (2010) : 特別支援教育コーディネーターの専門知識の有無が医療関連職の認知度・利用度・必要度に与える影響. リハビリテーション科学 東北文化学園大学リハビリテーション学科紀要, 6 (1), 23-32.
- 厚生労働省 (2015) : (平成27年法律第68号)「公認心理師法」
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12200000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu/0000121345.pdf> (2019年1月8日取得)
- 牧田浩一 (2019) : 臨床心理士と公認心理師の認知度 - 北星学園大学社会福祉学部福祉心理学科

- の1年生を対象としたアンケート調査 - 北星学園大学心理臨床センター紀要, 14, 61-65.
- 南條恵悟・高木峰子 (2019) : 地域在住の変形性膝関節症患者における理学療法の認知度と治療の実態 - 健康講話の参加者を対象とした質問紙調査 - 理学療法 - 技術と研究 -, 47, 49-55.
- 小原千郷・鈴木 (堀田) 眞理・西園マーハ文・他 (2020) : 一般女性における接触障害の認識調査 - 病名認知度と誤解・偏見 - 心身医学, 60 (2), 162-172.
- 小川美香・塩次雄史・金子泰久・他 (2020) : 歯科治療に対する恐怖感と歯科麻酔の認知度および潜在需要: 日本語版 Modified Dental Anxiety Scale を用いて. 日本歯科麻酔学会誌, 48 (2), 41-50.
- 芹澤宏・有木寿史・齋藤義正 (2020) : 企業における胃がん予防対策を見据えたヘリコバクターピロリ感染に関する認知度 診療状況のアンケート調査による検討. 日本ヘリコバクター学会誌, 21 (2), 146-153.
- 下野大・小園亜由美・栗原美和・他 (2018) : 糖尿病合併症としての歯周病認知度と野菜摂取量の実態調査. 日本病態栄養学会誌, 21 (4), 505-512.
- 庄林愛・小倉有子・伊賀大八・他 (2019) : 製パン関連企業勤務者におけるグルテンフリー食の認知度. 安田女子大学紀要, 47, 219-228.
- 杉原栄一郎・田澤美香代・野村美加・他 (2017) : 企業における心房細動認知度向上の必要性. 総合検診, 44 (6), 45-49.
- 八戸美朱・倉持梨恵子・榎将太・他 (2020) : 大学キャンパス内の AED 設置場所に関する学生の認知度調査. 日本アスレティックトレーニング学会誌, 5 (2), 171-177.